



日野原重明先生
2017年7月18日ご逝去 105歳

私が日野原重明先生に初めてお会いしたのは、昭和から平成に年号が変わる数年前のことでした。それ以前は日本の音楽療法界はまだ一つにまとまっておらず、様々なところで、音楽療法の萌芽の実践が行われていました。その一つが、日野原先生が立ち上げた「日本バイオミュージック学会」です。そしてもう一つが、山梨の日下部病院長松井紀和先生が主宰されていた「音楽療法セミナー」でした。

私が在籍した慶応義塾大学医学部神経科学教室（現精神・神経科学教室）では、当時、新入医局員は日下部病院を見学することが慣例となっていて、私は仲間の新入医局員と一緒に日下部病院を訪ね、松井先生が行っている音楽活動を初めて見学させてもらい、大いなる感銘を受けました。以後私は千葉にある元国立下総療養所、現在の国立病院機構下総精神医療センターに仕事の拠点を置き、音楽療法の活動へと邁進していきました。

それから10年を経過して1987年12月に、私は東京近郊の実践音楽療法家たちに参集してもらい、東京音楽療法協会を発足させましたが、それは偶然にも日野原先生が日本バイオミュージック学会を創設した翌年のことでした。やがて周囲から心身医学系と精神医学系の音楽療法を一つに統合しなければならないという考えが次第に高まり、1995年に、精神科系の音楽療法集団は松井先生のもとで臨床音楽療法協会としてまとめ、1996年には日本バイオミュージック学会と臨床音楽療法協会の組織の上層部だけで結合する「全日本音楽療法連盟」が設立され、そしてついに2000年11月3日、岐阜県における「音楽療法国際フォーラム岐阜」の開会式の舞台上で、日野原先生と松井先生が握手をして、日本でただ一つの音楽療法の研究・実践団体である日本音楽療法学会の誕生に至りました。

日本音楽療法学会の設立に多大なる貢献をされた日野原先生の高邁なご人格は、多くの方がご認識のとおりですが、人間日野原重明先生の核心にあったのは、キリスト教信仰者としての愛の精神だと思います。先生が亡くなられた後、

日野原重明先生への想い



日本音楽療法学会
理事長 村井 靖児

いろいろな回想記事がテレビや新聞で報道されましたが、それらから改めて分かることは、あの聖路加国際病院での患者さんとの対応において示される、親身になって患者さんの不安と向き合い、少しでも心の安らぎを届けようとする診療における真摯な態度です。自分の病気が凡て分かってもらえているという安堵感を患者さん達にもたらし、それが日野原式診療の極意だったのではないのでしょうか。

日野原先生は、患者さんに対し、あなたのためにちゃんとあげますよと、言葉、表情、態度から伝えていく、その確信が、日野原流診察の根本であったと感じます。学会での会議の席では、先生は部下の私たちに、特別注文はなさいませんが、よど号ハイジャック事件、サリン事件のあの極限状況の中で最も的確な対応がとれたということは、先生のなかに、人の命のテーマがいつも存在していたからだと思います。

先生は幼少時からピアノ教育を受け、大学時代に肺疾患を患って休学した折、沢山の音楽を聴き、また仲間とも一緒に演奏を楽しんだこと、そこからも察知されることは、音楽が人間にもたらす力を、誰よりも十分に知っておられ、その力を医学の中に取り入れ、周囲を啓発していくことが、自分の使命だと感じておられたのだと思います。その中で音楽の果たす役割がとても大きいと確信しておられたのではないのでしょうか。

音楽療法に生涯をかけている私たちは、日野原先生と同じように音楽の力への確信をもって、自らの仕事に邁進して参りたいと考えます。

最後に先生が講演で度々引用された、初代アメリカ音楽療法協会 NAMT 会長セイヤー・ガストンの次の言葉を引用しこの文章を終わりたいと思います。その言葉とは、「もし音楽でたやすく伝達されるものが、言語で伝達することが可能であるとしたら、音楽は存在しなくてもよかったし、またその必要もなかったろう」という言葉です。これは私が初めてガストンの本を読んで感動し、私を音楽療法に導いた言葉でもあります。日野原先生と同じ思いで音楽療法が出来たことを誇りに思い、心より感謝しております。先生、長いことお世話になりました。本当にありがとうございました。

第15回世界音楽療法大会を終えて

大会長 加藤美知子

日本音楽療法学会員の皆さま、2017年7月4～8日の5日間にわたって開催された第15回世界音楽療法大会が無事終了しました。ここに大会長として最後のご挨拶と報告をさせていただきます。

プレセミナーに1000名以上、5日間すべての参加が839名、プレセミナーを除く大会4日間の参加が975名と、平日の開催であるにもかかわらず1800名という数を超え、これに1～2日参加者を加え、合計2,907名となりました。さらに市民講座の300～400名の一般参加が加わります。

海外の47か国から700名を超える方たちが来日されました。以下に参加者数の多かった18か国を紹介いたします。日本 (2,246)、USA (159)、オーストラリア (94)、韓国 (41)、香港 (39)、中国 (36)、ドイツ (34)、台湾 (32)、タイ (31)、イタリア (27)、イギリス (25)、フィリピン (22)、ノルウェー (20)、カナダ (18)、フィンランド、オランダ、シンガポール、スペイン (各12) となり、あとの国々は10名未満でした。

プレセミナー、大会とそれぞれとどこおりになくプログラムが進み、多くの文化プログラムも好評のうちに終えることができました。閉会式の最後まで大ホールがいっぱいになるほど多くの方にご参加いただき、充実した大会であったと自負しております。

今回世界からプレセミナーとスポットライトセッションの演者およびモデレーターとして、24名の音楽療法士が来日されました。著名な方、そうでない方も含めてでしたが、全員航空運賃を自費で、スポットライトセッションの演者はさらに講師料もないうまに、それぞれ素晴らしい講演やワークを提供してくださいました。これまでの世界大会のルールにのっとってのことですが、遠くは南アフリカやチリから本当によく来てくださったと思います。

発表数は口演246、ワークショップ53、シンポジウム16、ラウンドテーブル23、ポスター168、合計506本となりました。

世界大会では学生による学生のためのプログラムも非常に重要で、今回もジャムセッション、ポスターセッション、ラウンドテーブル、ラウンジ、そして閉会式でのパフォーマンスと活発な活動が展開されました。さらに学生のためのプレセミナーおよび特別講演も提供されました。大会の4日間に実に434名の学生さんが参加されました。日本の学生さんも積極的に参加され、世界の学生さんたちと交流されたそうです。

朝8時半から全体プログラムが始まり、夜6時過ぎまでの発表の他に、数々の文化プログラムや催しが連日昼休みも夜もあり、同時に最大17本の発表が進行するという途方もない内容と規模の大会でしたが、約30名の実行委員と150名を超えるボランティアの皆さまの献身的な働きがあって、なんとか大きなほころびもなく大会を終えることができました。サポートして下さった方たちすべてに心からの感謝の言葉を述べたいと思います。ありがとうございました。

世界大会のホームページは年内いっぱい終わりますので、プログラム集、要旨集、抄録集、プロシーディングスなど、今のうちにぜひダウンロードされることをお勧めいたします。これらをじっくりと読み返しながら、今回の体験を今後の日本の音楽療法にどのように生かしていけばよいか、あらためて考えてみたいと思います。



第18回日本音楽療法学会学術大会（高松）へのいざない

大会長 佃 昌道

第18回日本音楽療法学会学術大会を下記のテーマにて開催の運びとなりましたので、ご案内申し上げます。

「個が奏でるハーモニー」 ～対象者を見つめる音楽療法士の姿勢～

この度、皆様方を初めて四国高松の地にお迎えできます事、支部会員にとりまして大きな喜びと存じます。四国支部では2009年に松山市で開催されて以来2回目となります。これまで多くの学会員の皆様方からの暖かいご支援ご鞭撻いただきました事、心より感謝申し上げます。

さて、大会開催のテーマにつきましては、多くの方々からのご意見の中から一つに絞り込むのに大変苦慮いたしました。音楽療法がおこなわれている場所に居る各個人（クライアント・セラピストなど）が個々に出す音や表現に注視し、音楽療法を通して、個々人同士が協調することをハーモニーにたとえ、「個が奏でるハーモニー」といたしました。そこで、サブタイトルでは、音楽療法の現場で、個と個が創るハーモニーを広く人間的な調和と捉え、クライアント同士がぶつかり合い一つのものが作り出される過程においても、音楽療法士は適切なタイミングでハーモニーを構築するという課題があり、そこに個を見つめる姿勢の必要性を含め「～対象者を見つめる音楽療法士の姿勢～」といたしました。今回のテーマを元に、多くの会員が意見交換を行い、音楽療法のハーモニーがより一層社会に広がる事が出来ればと思っています。

大会では、理事長挨拶の後、高松国際ピアノコンクール審査委員長の岩崎淑先生をお迎えし、楽しいピアノの演奏と指導者として、演奏家としての先生の素敵なお話を企画しています。

また、基調講演では、脳科学者の茂木健一郎先生をお迎えして、脳科学の観点から先生のご経験を生かした解りやすく、そして興味を持てるお話しをしていただく予定です。

本大会では、統一テーマの下に9月14日・15日・16日の3日間実施いたします。1日目の講習会では、近隣領域の先生方を含め、それぞれのご専門の立場からのご講演やワークショップ等を計画しています。2日、3日目の研究発表では、口頭発表、ポスター発表、自主シンポジウムを設定しています。2日目の午後には、国内学会としては初の出演者を公募してのミニコンサートを実施いたします。なお詳細につきましては、第2次案内をご参照ください。

結びに、ご当地香川県は、讃岐の国として栄えた風光明媚な土地柄で、名僧空海誕生の地でもあります。その空海が伝えたといわれる「うどん」を始め瀬戸内の小魚などに舌鼓し、名勝栗林公園、屋島古戦場などお尋ねいただき、四国遍路の文化、お接待の気持ちをお受けいただければ幸いです。そのためにも、是非ご参加いただきますよう、心からお待ち申し上げます。

開催日時：2018年9月14日（金）：講習会、15日（土）16日（日）：学術大会

会場：サンポートホール高松（高松市サンポート2-1）

■ 日本音楽療法学会 研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会

委員長 高山 仁

2017年度の研修・講習会のご案内を致します。「人と音楽を探求する—音楽療法におけるクリニカルな視点—」をテーマに掲げる2年目の今回、1日目（土）は「人と人を繋ぐ音・音楽」に焦点をあて、リトミックやうた遊び（出版多数）にも造詣の深い猪野純氏に「ココロとカラダ」「遊び・音楽」などについて講義・演習をしていただきます。また近藤真由氏には、「認知症予防」の話題を中心に、クリニカルな視点で高齢者の音楽療法の実践・研究についてお願い致しました。

2日目は会場をホールに移し、午前中は大寺雅子氏に質的研究を含めEBP（根拠に基づく実践）についてご講義をいただき、質疑応答・討議の時間にて、さらにその内容を皆様とともに深めたいと思います。

午後は「人を探求する」というテーマで2つの講演を企画しました。講演1は、日本赤十字看護大学で長年教鞭をとられた武井麻子氏に、「音楽療法における集団の視点～回復を促すためのヒント～」というタイトルで「集団（グループ）がもつダイナミクス」をキーワードにお話しいただきます。また講演2では、今春、NHKカルチャーラジオ「科学と人間」で『まど・みちおの詩で生命誌をよむ』が放送され、大きな反響を呼んだ中村桂子氏に、生命科学者の立場から、『生命誌』という新しい分野をご紹介いただき、生きものとしての「ヒトから人間」、人間の「生」について示唆をいただきたいと思います。両氏のご講演、大いに期待したいと思います。

私たちは、臨床・研究に携わる中で音楽療法の素晴らしさや必要性を確信しているからこそ、その視野を拓けさらなるチャレンジを課して成長したいと考えています。多くの会員の方々の参加を心よりお待ちしております。

◎プログラム

2018年2月10日（土）講義室 定員各会場150名（予定）

受付12：30～	A会場（児童領域）	B会場（成人・高齢者領域）
13：00～13：15	挨拶・ガイダンス	挨拶・ガイダンス
13：15～14：45	講義・演習1 響き合うココロとカラダのための即興・伴奏法 ～音楽とうごきの理論（リトミック）を背景に～ 猪野 純 ミュージックラボFUN 代表	講義・演習1 認知症予防を目的とした音楽療法 ～クリニカルな視点で考える～ 近藤真由 東海大学教養学部芸術学科 准教授
14：45～15：05	休憩	休憩
15：05～16：25	講義・演習2 同タイトル	講義・演習2 同タイトル
16：25～16：55	質疑応答・討議	質疑応答・討議
17：00終了		

2018年2月11日（日・祝）グランツザールホール 定員600名

受付08：45～	
09：15～09：30	挨拶・連絡事項
09：30～11：00	講義 音楽療法と研究：エビデンスに基づいた音楽療法実践（EBP）について考える 大寺雅子 四国大学短期大学部幼児教育保育科 准教授
11：00～11：30	質疑応答・討議
11：30～12：30	昼食休憩
12：30～14：00	講演1 音楽療法における集団の視点 ～回復を促すためのヒント～ 武井麻子 Office-Asako 代表 日本赤十字看護大学 名誉教授
14：00～14：20	休憩
14：20～15：50	講演2 「生きている」を見つめ、「生きる」を考える 中村桂子 JT生命誌研究館 館長 生命誌研究者
15：50～16：00	閉会 連絡事項

*今回の会場は2016年度と同様、東邦音楽大学（川越キャンパス）となり、講義・演習においては充実した音楽活動が期待できます。東京駅から大宮経由で約60分（乗り換え含まず）ですので、余裕をもってご参集ください。

*都合により一部講師、内容の変更が生じることがありますことを、予めご了承ください。

*今年度もご要望にお応えて「土・日曜：各一日参加」を設定いたします。是非、ご参加ください。

*尚、開催の詳細は改めまして12月にお送りいたします。

■ 2017年度資格審査（面接試験）について ■

●2017年度資格審査（面接試験）を申請できるのは次の方です。

1. 日本音楽療法学会認定音楽療法士（補）資格（合格年度に関わらず）を有する方
2. 日本国外の音楽療法士資格を有する方
3. 日本音楽療法学会認定音楽療法士の資格を失効し、再度同資格の取得を希望する方

●2017年度資格審査（面接試験）申請受付期間

2018年1月29日（月）～2月13日（火）まで事務局必着

●申請方法

認定規則「日本音楽療法学会音楽療法士認定規則（面接試験）」を取り寄せ、それに沿って申請してください

認定規則（面接試験）取り寄せ方法

500円の定額為替（郵便局で購入）を同封の上、「認定規則（面接試験）請求」として事務局へ送付してください（会員のみが配布対象）

●書類審査結果

2018年2月下旬通知

*書類審査合格者には面接試験の案内を同封します

●面接試験日

2018年3月10日（土）、11日（日）

*やむを得ない事情により希望日がある方は申請時に書面（書式自由）を同封して申し出てください

*面接試験日時の変更は出来ませんのでご承知おきください

●面接試験会場

東邦音楽大学 川越キャンパス 埼玉県川越市今泉84

●面接試験内容

口頭試問と実技（計15分間）

*実技に関する詳細は下記をご確認ください

●試験結果

学会ホームページにて合格者の受験番号を発表後、可否に関わらず3月末日までに文書通知

《2017年度資格審査（面接試験）における実技試験について》

1. 課題曲

面接実技試験弾き歌いのための課題曲は、下記A群（テンポの速い曲群）、B群（ゆっくり目の曲群）の各5曲とする。

A群（テンポの速い曲群）

- ① 青春時代……………阿久悠 詞、森田公一 曲
- ② 手のひらを太陽に……………やなせたかし 詞、いずみたく 曲
- ③ 南国土佐を後にして……………武政英策 詞・曲
- ④ リンゴの唄……………サトウハチロー 詞、万城目正 曲
- ⑤ 高原列車は行く……………丘灯至夫 詞、古関裕而 曲

B群（テンポがゆっくり目の曲群）

- ① 北国の春……………いではく 詞、遠藤実 曲
- ② 湯の町エレジー……………野村俊夫 詞、古賀政男 曲
- ③ 旅愁……………犬童球溪 詞、オードウェイ 曲
- ④ 少年時代……………井上陽水 詞、井上陽水・平井夏美 曲
- ⑤ 君をのせて……………宮崎駿 詞、久石譲 曲

2. 実施方法

上記A B各群から2曲ずつ選択し（計4曲）、資格審査（面接試験）申請時に明記する。

申請した曲の中から、当日指定された1曲の弾き歌いを行う。

*弾き歌いで楽譜を見ることは可とするが、それはメロディーのみ・コードネーム・歌詞が記載されている楽譜までとして、伴奏全部が記載されている楽譜の持ち込みは不可とする。

*実技試験は約3分。

3. 使用楽器

会場に設置されているグランドピアノ、または受験者が持参したギターに限定する。

※ギターの譜面台あり。

学会事務局からのお知らせ

■ 2017年度（補）資格試験を申請される方へ

2018年1月21日（日）に実施されます2017年度音楽療法士（補）資格試験の受験申請受付期間は、2017年11月16日（木）～11月30日（木）まで必着です。なお、試験の実施会場は東京会場（日本教育会館）1ヵ所のみです。（補）試験に関する詳細は、学会ニュース33号11ページをご確認ください。※一般コースから（補）資格試験を申請される方は、一昨年度より「証明書現物返却用封筒」への切手貼付けは不要となりました。

■ 2017年度資格審査を申請される方へ

2017年度資格審査の申請（面接試験）期間や申請方法等につきましては、5ページをご覧ください。

■ 2017年度資格更新審査および猶予を申請された方へ

2017年10月31日（火）までに提出された更新および猶予申請の審査結果は2018年2月初旬までに通知されます。

■ 「団体総合保障保険」のご案内

音楽療法士の業務保険を同封のパンフレットのとおりにご案内します。保険については加入を希望される方はパンフレット綴じこみの「保険申込FAX連絡票」にて記載の期日までに事務局まで加入依頼書を請求してください。この保険は日本音楽療法学会会員専用として特別に設定したものです。加入者が少ない場合廃止となりますので奮って加入いただきますようお願いいたします。

なお、この保険についてのお問い合わせはTEL：044-200-9421のセントラル保険までお願いします。

■ 認定音楽療法士対象 ピティナとの情報共有サービスについて

一般の方々への「音楽療法士資格を保有するピアノ指導者」の情報提供を目的として、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会（以下、ピティナ）との間で、学会認定音楽療法士有資格者の情報共有サービスを開始しました。条件を満たす方はピティナ Web サイト上のピアノ教室紹介ページに「音楽療法士マーク」を無料で表示することができます。ご希望の方は下記に沿ってお申し込みください。

対象者：日本音楽療法学会認定音楽療法士 かつ ピティナ会員である方。

申込方法：会員名、学会とピティナ両方の会員番号を明記の上、「ピティナ ロゴマーク表示希望」として学会事務局宛にメールをお送りください。

メールアドレス jmta2@jmta.jp

注意事項：申し込み先はピティナ事務局ではございません。

申し込み後、ロゴマークの表示までに日数を要しますのでご了承ください。

認定音楽士資格が失効した場合、ロゴマークの表示は中止されます。



■ DVD「第15回世界音楽療法大会」ダイジェスト版（17分）発売のお知らせ

2017年7月4日～8日の大会のDVDダイジェスト版が発売となりました。特に大会に参加されなかった方はご購入をお勧めします。

頒布価格1枚1,000円（税込、送料込）

■ 「スーパービジョンの手引」のご購入について

スーパービジョン検討特別委員会編纂の「スーパービジョンの手引」が発行されています。（A4版60ページ、2015年8月発行）購入を希望される方は21ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。

■ 「抄録の書き方」のご購入について

研修・講習委員会編集による「抄録の書き方（わかりやすい学会発表をするために）」が発行されています。（B5版76ページ、2006年8月23日発行）購入を希望される方は21ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。

■ 〈DVD「音楽のちから2012」～音楽療法が拓く可能性～〉のご購入について

15分間の音楽療法の啓発DVDが発売されています。購入を希望される方は21ページ「各種取り寄せ方法」をご覧ください。（一般の方に視聴していただくのに最適です。）

■ 映画「パーソナルソング」DVDご購入について

音楽療法関連の表記映画のDVDが発売されています。学会割引価格で頒布しますので、購入希望の方は21ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧くださいの上お取り寄せください。

頒布価格1枚3,000円（税込、送料込）。（定価4,104円、税込）

■ 学会ホームページからの規則書閲覧について

学会ホームページより各規則書の抜粋版を閲覧いただくことができます。メニューより「ダウンロード」を選択し、規則書ファイル（PDF）をダウンロードしてご覧ください。

■ 各種資料取り寄せ方法

各種資料のお取り寄せを希望される方は、郵便局にて料金分の定額為替をご購入いただき、希望資料の内容を明記した封筒（例、規則書必修講習会コース 請求）に同封の上、学会事務局までお送りください。その際、お送りいただく為替には「なまえ」など何も記入しないでください。返信用封筒は不要です。

資料		金額（送料込）
認定規則書	必修講習会コース	500円
	面接試験	500円
	資格更新	500円
認定音楽療法士（補）問題解説集	2001～16年度単年度版 ※希望年度を明記してください	各1,000円
	2001～05年度、2006～10年度、2011～15年度 五ヶ年分合冊版 ※希望年度を明記してください	各2,000円
その他冊子	倫理ハンドブック	500円
	特別プロジェクト研究報告	500円
	抄録の書き方	1,000円
	スーパービジョンの手引き	1,000円
DVD	音楽の力2012 ～音楽療法が拓く可能性～	1,000円
	第15回世界音楽療法大会ダイジェスト版	1,000円
	映画パーソナルソング	3,000円
学会誌、学術大会要旨集	日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌バックナンバー、学術大会要旨集（第15回世界音楽療法大会含む）のバックナンバーは学会事務局では取り扱っておりませんので下記までお問い合わせください。 アカデミア・ミュージック株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634	

■ 会費（年会費）納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いいたします。昨2016年度分未納の方は、このまま滞納が解消されない場合、2018年3月末にて会費未納退会となります。この場合、再入会はできません。

正会員	10,000円	学生会員	6,000円		
購読会員	6,000円	賛助会員	50,000円／1口		
払込先	郵便振替口座	加入者名	日本音楽療法学会	口座番号	00120-9-657711

■ 事務局への各種お届けについて

○会員区分変更

現在学生会員の方で教育機関を卒業された方は、正会員への会員区分の変更が必要です。事務局まで文書にて区分変更の届出をお願いします。書式は自由です。正会員から学生会員へ変更を希望される場合は、学生証のコピーを添付の上、同様に事務局へ届け出てください。

※学生会員は認定申請ができないとともに、研究発表、論文発表もできません。ご注意ください。

※認定をお持ちの方、必修講習会を受講中の方は正会員であることが必須のため、学生会員への変更はできません。

○住所・名義変更 ※学会 HP から手続きできるようになりました。

市町村の合併などを含め住所および連絡先に変更がある方、名義を変更される方は、学会 HP から、もしくは事務局宛に文書で届け出てください。書面で提出する場合の書式は自由です。

■ 各種証明書再発行手数料のお知らせ

学会の発行する各種証明書の再発行にはつぎの手数料がかかりますのでご了承ください。

手数料分の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、希望の再発行内容を記載し学会事務局へお申し込みください。

○音楽療法士（補）資格証明書、学術大会参加証明書（第6回大会から）講習会受講証明書、など

手数料：500円

○音楽療法士登録証明書、賞状

手数料：2,000円

*記載の住所や名義の変更も含まれます。

*3×4 cmの顔写真、現在お持ちの登録証明書と賞状を同封して、学会事務局までお送りください。

*登録証明書・賞状ともに再発行する場合も、一方のみを再発行する場合も、手数料は一律2,000円です。

*名義変更の場合は、氏名のローマ字表記を明記してください。

*1ヶ月程度お時間がかかりますのでご了承ください。

■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載しています。有償で直接雇用のものに限定しますが、求人情報を事務局へお寄せください。掲載期間は3ヶ月です。なお、求人情報ページは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。

■ 2018年度（2019年開催）全国研修・講習会の日程について

先に開催された第17回総会において、総会議案書に記載の「2018年度事業計画 全国研修・講習会予定」について、開催日を口頭で訂正しましたが、議案書の記載に誤りはございません。次のとおり改めてお知らせいたします。

2018年度全国研修・講習会 2019年2月9日～2月10日（東京）予定

北海道支部 — 近況 —

支部長 安藤 妙子

北海道支部は会員数189名、認定音楽療法士97名の小さな支部ですが、年2回春と秋の支部大会の開催と3月・8月のニューズレターの発行を支部発足以来変わりなく続けております。

春の支部大会は、2017年5月14日（日）医療大学サテライトキャンパスにおいて、第31回北海道支部・総会・講習会を開催いたしました。お陰様で盛会に終えることが出来ましたこと、感謝申し上げます。

また、秋に行われます第32回支部大会・講習会は2017年10月30日（日）医療大学サテライトキャンパスにおいて、演題発表のあと教育講演では、Stuart Wood（スチュアート・ウッド先生）をお迎えして、「講義」と「ワークショップ」を予定しております。

イギリスでの認知症高齢者に対しての音楽療法を学ぶ良い機会と思います。

皆様ぜひお越し下さいますようご案内申し上げます。

日時 2017年10月29日（日）10：00～16：00

場所 北海道医療大学 サテライトキャンパス

（札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45・12F）

講師 Stuart Wood（スチュアート・ウッド氏）MBE、Ph、D

（ギルドホール音楽演劇学校研究主任、ウエルカム・トラスト学術研究員）

講義 「認知症の音楽療法」～音楽を生かしたエクセサイズの理論と実践～

ワークショップ 「音楽を生かしたエクセサイズ」

北海道支部会員のみならず他支部からの参加も歓迎いたします。

問い合わせ 北海道支部事務局：〒065-0011 札幌市東区北11条東11丁目2-21

Email：jmt.hokkaido@gmail.com

詳細については、北海道支部ホームページでご確認ください。



東北支部 — 近況 —

支部長 須佐 涼子

2017年6月17日（土）～18日（日）の2日間、第17回日本音楽療法学会東北支部学術大会が岩手県盛岡市にて開催されました。

今大会では「音楽療法の専門性を再考する」～音楽療法士と他職種との連携の中で～をテーマに、アメリカから小沼愛子氏、地元岩手から諸橋勇氏をお迎えいたしご講演をいただきました。特別企画ではひとつの事例をもとに、音楽療法士と理学療法士両者からの視点においてセッションを分析していく興味深い観察がなされ、会場からも積極的な意見、質問が飛び交う活発な議論の場となりました。

2017年度支部講習会は鈴木祐仁氏を講師にお招きいたします。

日時：2018年2月18日（日） 11：00～15：00（予定）

会場：宮城県仙台市

テーマ：「音で伝える・音でつながる」～せいじんのおんがくをそうぞうする～

講師：鈴木祐仁氏（野花の座、日本音楽療法学会認定音楽療法士）

内容：成人領域の音楽療法について現場で用いた音楽の紹介や演奏、ワークショップを通して、受講者の皆さまと「自分の成人の現場にどのような音楽があると良いのか」を考えます。

東北支部会員のみならず他支部会員の参加も歓迎いたします。是非お越しくださいませ。

問い合わせ：東北支部事務局 〒020-0117 盛岡市緑が丘2丁目14-43 渡邊方

Email：jmta-tohoku@festa.ocn.ne.jp

関東支部 — 近況 —

事務局長 猪之良高明

1. 関東支部大会・講習会（東京大会）開催について

第16回日本音楽療法学会関東支部 地方大会（東京）が2018年2月25日（日）東邦音楽大学 川越キャンパスにおいて開催されます。「ひろめる、ふかめる、そしてつづける」を大会テーマに様々な企画で皆様をお迎えしたいと思います。

詳細については、関東支部ホームページに掲載されておりますのでご覧ください。また、関東支部会員のみならず他支部会員の参加も歓迎いたしますので、ぜひお越しください。

2. 講習会のお知らせ

関東支部では会員ニーズに応えるべく、関東支部大会・講習会以外にも様々な講習会を企画しております。①都県別講習会 ②支部研修講習会 ③ラーニングサポートセンター研修会等々の開催を予定しております。支部以外の会員や一般の方も参加可能な研修もあります。

開催要項が変更になることもありますので、今後のニュースや支部ホームページでご確認ください。

2017年11月以後の研修予定

・ 都県別講習会（茨城県）

日時 2017年11月5日（日） 13:30～16:40

会場 つくば国際会議場エポカール 会議室401

内容 ①講演 新井哲明「高齢者の認知機能と認知症予防について」
②ミーティング

・ 2017年度第8回支部研修講習会

日時 2017年11月26日（日） 10:30～16:00

会場 日本福祉教育専門学校 高田校舎

内容 ①講演 郡司正樹「専門職としての音楽療法士のあり方」
②事例発表2題
③総括、インフォメーション

・ ラーニングサポートセンター研修（第8回）

日時 2017年12月17日（日） 10:00～16:30

会場 日本福祉教育専門学校 高田校舎

内容 ①ワークショップ
A小林純恵、猪之良高明「音と視覚支援を活用して」
B近藤靖子「倍音を意識して歌ってみよう！」
②ピアスーパージョン

・ 都県別講習会（山梨県）

日時 2018年1月28日（日） 13:00～16:30

会場 山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ総合

視聴覚・音楽室
内容 講演 穴戸幽香里「行動特性に応じた音・音楽の使い方」

いずれの案内も、日程や会場が変更になる場合がありますので、詳細は関東支部ホームページをご確認ください。

関東支部ホームページ <http://www.jmta-kanto.jp/>



信越・北陸支部 — 近況 —

事務局長 丸山 敬子

信越・北陸支部では、平成29年6月4日（日）に第15回支部学術大会（大会テーマ「多職種連携と音楽療法のアイデンティティー」大会長 早川昭氏）を新潟県長岡市のハイブ長岡において開催しました。「保健、医療、福祉、教育などの状況が大きく変動する中で、音楽療法がその質をより高め、より発展するためには異なる職種、異なる立場の方々との連携、相互交流、相互理解が欠かせない」との観点でプログラムが組まれた大会でした。

午前中は研究発表が2題とシンポジウムでした。シンポジウムは、「多職種が考える音楽療法と連携とは何か～音楽療法士に期待するもの～」と題して、医師、作業療法士、介護福祉士、音楽療法士の皆さんの提言をもとにディスカッションが行われました。

午後は、特別講演、グループワークが行われました。特別講演は、押木内科神経内科医師、永井博子先生による「心をつなぐ音楽療法」－これまで、そして今後の可能性－と題して、ご自身のクリニックの音楽療法場面の紹介も交えて音楽療法士にエールを送ってくださる心強い内容でした。その後、支部総会を経て、グループワークでは多職種連携の実際と課題・展望等についてそれぞれの実践を踏まえて討議を行いました。参加した学会員からは「支部大会ならではの有意義な情報交換ができた」との感想があがりました。学会員にとって、このような情報交換の場が重要であると認識した次第です。

各県の交通アクセスが不便な支部だからこそ、今後も連携を意識した活動をしていきたいと考えております。また、団体登録されている研究会等は現在10団体で活発な研究・研修活動が行われております。来年の第16回支部学術大会は6月2日3日に福井県敦賀市で開催予定です。

東海支部 — 近況 —

事務局長 菅田 文子

第16回東海支部大会が行われ、一般を含めて212名の参加がありました。研修会も同時に行われ、密度の濃い一日となりました。ポスター発表も行われ、また、東海支部外からの会員も発表するなど、大会の内容が充実してきたと感じています。

第17回大会は平成30年3月18日（日）に鈴鹿大学にて開催されます。詳しくは支部HPをご覧ください。

今年度は東海支部役員選挙が行われるために準備を進めています。来年度からは新体制となる予定です。



近畿支部 — 近況 —

事務局長 佃 誉子

近畿支部では2018年3月24日（土）・25日（日）に、兵庫県西宮市にあります武庫川女子大学中央キャンパスにて、第16回近畿学術大会を開催します。この近畿学術大会の開催に向けて、大会実行委員会と支部講習会企画委員会により準備を進めています。大会1日目には、研究発表、ラウンドテーブルや交流会の他、今年度は重度身体障害者の方によるバリアフリー楽器サイミスの演奏もあります。大会2日目は、実践の糧となる9コマの講習会を企画しております。

会場の武庫川女子大学は、本学会認定音楽療法士資格試験受験認定校として、医療・福祉・教育等の幅広い領域に、音楽療法士の人材を輩出している大学です。会場は、伊丹空港からも新幹線新大阪駅からも約1時間で来ていただける大変便利な場所にあります。他支部の方も歓迎いたしますので、どうぞご参加ください。詳細は近畿支部ホームページをご覧ください（<http://www.jmtak.com/>）。

2002年より発行しています『近畿音楽療法学会誌』は、原著論文や事例研究、近畿学術大会講習会の概要、近畿支部活動記録の他、上記ラウンドテーブルの報告記事も掲載しています。購読をご希望の方は近畿支部事務局（jmtak@guitar.ocn.ne.jp）、またはアカデミア・ミュージック株式会社（03-3813-6751）までお問合せください。



中国支部 — 近況 —

支部長 武田千代美

中国支部は、第17回中国支部大会、第24回支部主催講習会を、6月10日、11日の両日、広島県福山市 福山大学宮地茂記念館を会場に開催しました。

第1日目の支部主催講習会には、堺市重症心身障害者（児）支援センターベルデさかいの岸本真先生、ジャズピアニストの中西隆先生、広島文教女子大学の木村敦子先生をお招きし、ご講演をいただきました。

第2日目の支部大会は、「音楽療法における関係性」をテーマに講演、研究発表を企画し、併せて会員総会を開催しました。教育講演では、広島大学 横藤田誠先生に「障害者の権利と障害者差別解消法」と題してご講演いただきました。また、新理事長に就任されました、村井靖児先生に講話を賜りました。

たいへんに貴重なお話を拝聴でき、有意義な2日間となりました。改めまして講師の先生方に感謝を申し上げます。

また、開催に際しましてご協力を賜りました関係各位に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

7月4日から開催された、音楽療法世界大会において、中国支部からポスターを出展しました。会場に設けられた支部ブースに、「中国地方の神楽」について調査し、2枚のポスターにまとめて張り出しました。

昨年度まで、中国支部はラーニングサポートセンターのモデル事業に参加し、これまでに3回の講習会を開催しました。今年度より支部主催で開催することとなりました。この秋に開催予定です。詳細は支部HPにてお知らせいたします。

四国支部 — 近況 —

広報 坂東 浩

「第13回日本音楽療法学会四国支部学術大会」が、平成29年9月3日（日）に、こうち男女共同参画センター・ソールで開催されました。大会長は三崎めぐみ支部長、大会運営は高知の皆様、事務局は藤井澄子先生、皆さまにお世話になり、感謝申し上げます。

午前中には、中野弘治先生（こころとからだの発達相談塾 MABA）が、教育講演Ⅰ「相互交渉における関係性の構築～臨床動作法の理論と実践より～」を担当くださいました。対象者との距離、身体を通したコミュニケーション、そして動作法などに触られました。

また、背中を丸めた状態でボールを投げる動作、姿勢を正してボールを投げる動作では、顔や肩の上がり方が全く違い、ボールの飛び方が違うことが分かり、改めて姿勢を正す重要性を認識できました。股関節の緩めと座位姿勢作りでは、参加者が体験でき、正しい座位姿勢を実感して楽になったとの声も聞かれました。2人組で施行し、サポート役割の人にも相手の体に触れると、相手の体の状態が分かることも実感できたようでした。

昼食後には、ポスター発表と講演発表が行われました。午後2時から、山中智子先生（高知県教育センター）が教育講演Ⅱ「聞こえについて、聴覚障害のある方への関わり方」を担当くださいました。聞こえの仕組み、聴覚障害について、補聴器、人工内耳システムなどについてお話いただきました。先生が持参した補聴器を活用し、実際に参加者が体験することで、補聴器をつけている方が、言葉や音楽がどう聞こえているかを理解できました。言葉の豊かさは感情の豊かさにつながるという先生の言葉が印象に残りました。

大会後には四国支部総会が開催され、予定していたスケジュールは無事に終了できました。なお、来年2018年9月に開催される高松の全国大会については、実行委員が準備に頑張っています。



九州・沖縄支部 — 近況 —

事務局 西林 淑子

九州・沖縄支部においては、総会を兼ねた年次大会の他に認定者対象の研修会など年間数回の支部主催の講習会を行っている。今年度は去る8月27日に山根寛先生を講師に迎え「作業療法の視点からみた音楽活動」ということで音楽活動をするとはどういうことなのか、脳の働きと身体機能の連携など「脳-身体-音楽」についての理解を深めることができた。非常にわかりやすく講義していただき、受講者に好評であった。

またこのような講習会の他に、昨年4月の熊本の震災に対して、熊本音楽療法研究会のメンバーを中心に「熊本地震対策特別委員会」が発足、東北の先例に習い被災地での音楽活動実践の他にも、ボランティア派遣や被災者支援の心得等の講習会開催など活発な取り組みが始動している。

熊本の復興にもまだまだ息の長い支援活動が必要と思われるが、その矢先に福岡県での集中豪雨被害など天災が続いており、今後も支部会員の協力を図りつつ被災者支援に尽力していく所存である。